



皮膚科・アレルギー科

松戸ひなげし皮膚科

<http://www.hinageshi.jp>

● 診療時間 ●	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:30-12:30	○	○	○		○	○	休診
14:30-18:30	○	○	○	休診	○	/	休診

◎ 月曜午後のみ19:30まで診療

※ 受付は診療終了時間の30分前までです

お問い合わせ

TEL 047-711-7476



松戸ひなげし皮膚科

松戸駅西口徒歩2分

1F 松戸駅西口郵便局

〒271-0092
松戸市松戸1305-25 小畠ビル4F

ひなげし通信 No.5



院長 谷野千鶴子

ひなげし通信

5号 不定期発行

お題「塗り薬の種類と特徴」

今回は、塗り薬—「軟膏」、「クリーム」、「ローション」の違いについてお話をしましょう。

〈症状・場所によってそれぞれ使い分ける!〉

皮膚科で処方される塗り薬は、基剤(薬を溶かし込んでいる成分)や薬の形状によって「軟膏」、「クリーム」、「ローション」などに分けられます。

一番よく使われる「軟膏」は、基剤に白色ワセリンなどを使っているもので、半透明な色をしています。刺激が少ないので、じくじくした炎症にも乾いた炎症にも幅広く使うことができます。ただし、塗るとベタベタした感じがあります。

白っぽい色をした「クリーム」は、水と油を混ぜたものを基剤としています。べとつかないので、汗をかきやすい夏は使いやすいです。ただし、軟膏に比べて皮膚を刺激してしまうことがあります。じくじくした炎症に使うと症状をひどくすることもあるため、注意が必要です。

「ローション」は液剤で、頭などの毛が密生していて軟膏やクリームでは塗りにくい部位に塗るのに適しています。ただし、アルコール分などが配合されている場合は、刺激が強くなることもあります。クリーム同様、じくじくした部位への使用は不向きです。

このように、塗り薬といつてもいくつかの種類があるため、皮膚科専門医は皮膚の症状・場所をきちんとみて診察した上で、処方する塗り薬を使い分けています。

状態をこじらせないためにも、市販薬や以前もらった薬などを自分の判断で使用する場合は、十分に気をつけましょう。